



社会福祉法人 大崎市社会福祉協議会



目次

1. 「福祉」について P1
 - ▶ 「福祉」とは？
 - ▶ 「社会福祉協議会（社協）」とは？
 - ▶ 「福祉学習」とは？
2. 福祉学習実施までのながれ P2
3. 福祉学習を始める前に… P3
4. 福祉学習事例集 P5
5. 各種様式 P14

はじめに

大崎市社会福祉協議会では、大崎市に住むみなさんが、地域福祉を「我が事」としてとらえ支え合う「地域共生社会」の実現を目指し、地域福祉の推進に取り組んでいます。

そのきっかけとなる「福祉学習」を、学校や地域の皆さまへ円滑に提供でき、また、福祉を身近に感じていただけるよう『ふくしの学びハンドブック』を作成しました。

学校で福祉の授業を計画される際や、地域で支え合いや防災についての行事を企画される際などに、このハンドブックを手に取り、社協にもぜひお声がけをいただければ幸いです。

大崎市社会福祉協議会では、これからも学校や地域のみなさんとともに「福祉のまちづくり」に取り組んでまいります。



〈大崎市社会福祉協議会イメージキャラクター〉

「福祉」とは？

「福祉」と聞くと、高齢者や障がい者を対象とした特別なことのようにも思われるかもしれませんが、「福祉」の漢字から見てみると、「福」「祉」どちらも「幸せ」という意味が込められています。つまり「福祉」とは、特定の誰かではなく、「全ての人の幸福」を意味します。

一人ひとりが幸せに暮らしていけるように、みんなで支え合いながら暮らしていくこと、「ふだんの 暮らしの しあわせ」が「福祉」と言えるでしょう。



「社会福祉協議会（社協）」とは？

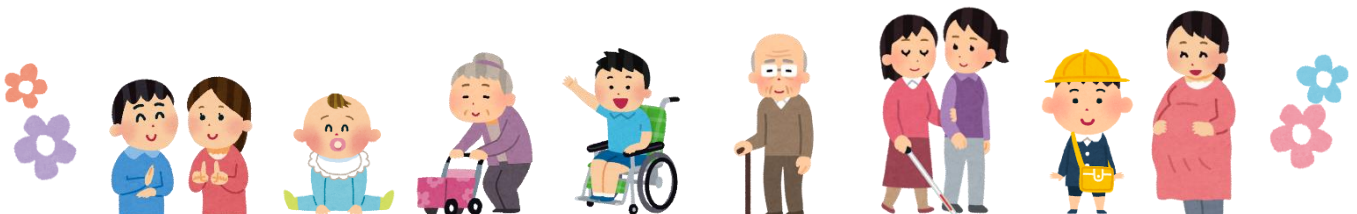
「社会福祉協議会（社協）」は、昭和26年（1951年）に制定された社会福祉事業法（現社会福祉法）に基づき、民間の社会福祉活動を推進することを目的に、各都道府県・市区町村に設置されている団体です。

みなさんが暮らしている地域では、ちょっとした助けを必要としている方や、様々な困りごとを抱えている方がいます。社協は、そうした方々の困りごとの解決を目指し、住民のみなさんや行政など、たくさんの方々と協力して、みなさんの普段の暮らしをより良くするためのお手伝いをしています。

「福祉学習」とは？

地域には赤ちゃんからお年寄りまで、また、障がいのある方やもうすぐ赤ちゃんが生まれる方など、いろいろな方が暮らしています。

「福祉学習」は、地域には様々な方が暮らしているということや、暮らしの中で起こる困りごとを様々な体験を通して理解し、困りごとを抱えている方の気持ちに寄り添って、自分には何が出来るか、地域の方々が幸せに暮らしていくために何をしたらよいか、そのことを様々な方々と共に考え、実践する力、思いやりの心を育む機会です。また、みなさんが自然に行なっていることが誰かの為になっていること、「福祉」に繋がっていることに気付く機会ともなっています。



① 事前相談



事前相談では、学習内容や実施日、参加人数、学年（年齢層）、実施場所等についてもお伺いたします。何をしたらよいのか、学習の内容にお困りの場合もぜひご相談ください。
(※実施予定日の1ヶ月前までにご相談ください。)

② 事前打合せ



事前相談で伺った内容を具体化し、社協で学習計画を立てます。計画内容をご確認いただき、当日のタイムスケジュールや準備物等の確認をいたします。
(※場合によって、実施スペースの確認等も含め、実施場所へお伺いさせていただくこともございます。)

③ 福祉学習実施依頼書の提出



『福祉学習実施依頼書』(P.14) に必要事項を記入し、実施日の1週間前までに社協へ直接またはFAX等でご提出ください。

④ 福祉学習実施当日



事前に立てた学習計画に基づき、福祉学習を実施いたします。
(※当日は、事故や怪我等なく学習に臨めるよう、全員で協力し、安全確保に努めましょう。)

⑤ 福祉学習実施報告書の提出



『福祉学習実施報告書』(P.15) に必要事項を記入し、社協へ直接またはFAX等でご提出ください。今後も福祉学習の内容を充実させていきたいと思っておりますので、ご意見・ご感想をお聞かせいただければ幸いです。

★『福祉学習実施依頼書』『福祉学習実施報告書』については、大崎市社協HPからもダウンロードできますのでご活用ください。

福祉学習を始める前に…

目的

「福祉」について知る

「障がい」を正しく理解する

相手の気持ちを理解する

思いやりの心を育む

自分に何が出来るか考える

一人ひとりの違いを知り、
多様性を理解する

災害・防災に関する知識を
学び、意識を高める

支えあいや地域に目を向ける
きっかけをつくる

社会参加へのきっかけづくり

その行動が誰かの役に
立っていることに気付く



「こんなねらいで…」
「こんなことやってみたいな…」など、
思い描くねらい・目的を考えてみましょう。

「福祉学習」と一口に言っても、様々な目的やプログラムがあります。事前に目的に沿ってプログラムを組み立てていくことが、福祉学習を行うためには効果的です。

プログラム

キャップハンディ体験※



※キャップハンディとは「ハンディキャップ」(不利な条件)の前後を入れ替えてつくられた言葉で、「立場を入れ替えて考えよう」という気持ちがこめられた言葉です。

⇒P.5へ

⇒P.8へ

ボランティア活動



福祉の講話

福祉



⇒P.7へ

世代間交流



⇒P.12へ

防災学習



⇒P.10へ

地域福祉の担い手育成



⇒P.8へ



次のページからは社協による福祉学習実践事例をご紹介します⇒



思いやりの心を育む学習(小学校)

▶古川支所

福祉体験学習を通して障がい者や高齢者の暮らしを理解するとともに、思いやりや助け合いの心を育むことを目的に実施しています。また、福祉を身近に感じてもらい、福祉に対する関心や意識の向上を図っています。福祉体験では各校の要望に合わせて、車いす体験・白杖体験・高齢者疑似体験・福祉講話等の内容を組み合わせてプログラムを組み、実施しています。体験を通して高齢者や障がい者への優しい気持ちが育つきっかけになっています。



◀ 車いす体験

スロープや段差のあるところを実際に体験しました。



▶ 高齢者疑似体験 ▶

ゴーグルやサポーターなどを装着して歩いてみました。

体験学習の流れ(3・4時間目)

例 [児童数：10～20名の場合]

- 10：40 開会行事
(体験内容・自己紹介等)
- 10：50 車いす体験
- 11：10 休憩・消毒等
- 11：15 白杖体験
- 11：35 休憩・消毒等
- 11：40 高齢者疑似体験
- 12：00 閉会行事
(体験の振り返り・感想等)

実践できる力を育む学習(中学校)

▶古川支所

福祉体験学習を通して福祉についての理解を深めるとともに、自分にできる事はなにか考え、相手を思いやり、助け合い活動を実践できる力を育むことを目的に実施しています。福祉体験では各校の要望に合わせて、非利き手体験・車いす体験・白杖体験・福祉講話等の内容を組み合わせてプログラムを組み、実施しています。体験を通して地域の福祉にも目を向けるよいきっかけになっています。



◀ 非利き手体験

利き手でない手で不自由さの体験をしました。



▶ 白杖体験 ▶

白杖を利用して、視覚障がい者の体験をしました。

例

体験学習の流れ(5・6時間目)

[生徒数：2クラス60名の場合]

- 13：00 開会行事
(体験内容・自己紹介等)
- 13：10 非利き手体験：車いす体験：白杖体験
①グループ：②グループ：③グループ
- 13：35 休憩・消毒等・移動
- 13：40 非利き手体験：車いす体験：白杖体験
③グループ：①グループ：②グループ
- 14：05 休憩・消毒等・移動
- 14：10 非利き手体験：車いす体験：白杖体験
②グループ：③グループ：①グループ
- 14：35 閉会行事
(体験の振り返り・感想等)

地域の頼もしいボランティア

▶▶三本木支所

三本木ボランティア友の会「^{きらくかい}喜楽会」は、障がい者をサポートする活動をしています。

「喜楽会」の日頃の援助活動を生かし、三本木小学校が実施しているキャップハンディ体験にご支援いただいております。

車いす体験や高齢者疑似体験、点字体験、利き手不自由体験等、児童が福祉に対して関心や理解を深めることを目的に実施しています。

《参加児童の声》

「お年寄りの気持ちがよくわかりました」

「サポートしてくれるボランティアさんがいたので、体験がスムーズにできました」



▲車いす体験支援



▲点字体験支援

私たち自身も、子どもたちからたくさん元気をもらっています！



「喜楽会」のみなさん

大人のキャップハンディ体験

▶▶三本木支所

地域住民を対象に地域福祉について理解や関心を深める学習の場を提供し、福祉人材の育成から福祉活動に繋げることを目的にハッピースクール事業を開催しています。

事業の一つとして「大人向けキャップハンディ体験」と題し、キャップハンディ体験を通して障がいのある方に寄りそえる人材の育成を行い、福祉に関心を寄せていただけるように実施しています。

《参加者の声》

「なかなか体験できないことが体験できて勉強になりました！」

「車いすに触ったのは初めてでした！簡単に動かせると思いましたが難しかったです。」



▲車いす体験



▲白杖体験



▲目かくし食事体験



「福祉(ふくし)」ってなあに？

▶▶田尻支所

「福祉(ふくし)」に関する講話を通して、その言葉の意味や、どういうことを指す言葉なのか、様々な視点から「福祉」について学びます。

福祉を学ぶための体験等の前に、導入として取り入れることにより、体験がより効果的になります。

◀ 講話内容(例) ▶

- ◆「福祉」が表す漢字の成り立ちや意味は？
- ◆身近にある「福祉」とは？
- ◆建物やまちの中で見かける“マーク”の意味って？
- ◆“バリアフリー”“ユニバーサルデザイン”って？
- ◆自分たちにできることは？



地域の福祉活動を応援します！

▶▶鹿島台支所

福祉出前講座事業では地域の要望に応じてレクリエーションや介護講座等の福祉講話を実施しています。

鹿島台地域では障害者福祉サービス事業を多く展開しており、障がい福祉サービスについての講座を特徴としています。専門の職員が地域に伺い、障がい者への理解や社協で提供しているサービスについての講座を実施しています。



▲福祉出前講座「障がい者福祉について」の様子

当日の内容

「障がい者福祉について」

- ①大崎東部相談支援事業所とは
- ②生活介護事業所「元気」とは
- ③短期入所事業所「元気」とは
- ④共同生活援助事業所
「ケアホームあじさい」とは

例

▲上記以外の内容も承りますので、
まずはお気軽にご相談ください！



地域の福祉力向上を目的として、住民が支え合い・助け合う活動を
社協が福祉出前講座で応援します！！



福祉レクリエーションで地域を元気に

▶▶岩出山支所

地域のお茶っこ会・サロン活動が、今後住民主体で円滑に運営・開催されていくと共に、本事業の講座を受講された地域のお世話役の方々が、居住されている地域外でもサポート役としてご活躍できるような地域づくりを目指して「福祉レクリエーション講座」を開催しています。

自宅にあるような材料を使って出来るレクリエーションを紹介するほか、社協で貸出しているレクリエーション用品を紹介するなど、地域のつながり・支え合いのツールであるレクリエーション技術を、楽しみながら習得し、地域福祉の強化を図ります。



▲福祉レクリエーション講座の様子

▲レクリエーション用品



地域での募金活動

▶▶鳴子支所

共同募金活動を通して、共同募金活動への関心を深め、生徒の共生する力を養うと共にボランティア活動への意識向上を図ることを目的に福祉教育推進事業の一環として実施しています。

例年、鳴子中学校にご協力をいただき、鳴子峡レストハウス前で募金活動を実施し、鳴子を訪れる観光客に募金のご協力をいただいております。募金活動前には赤い羽根共同募金とは何か、ボランティア活動での注意事項等を説明させていただき、生徒のボランティア活動に対する意識も高められています。

赤い羽根共同募金への
ご協力よろしくお願いします！



愛ちゃんと希望くん

▲赤い羽根共同募金活動の様子

地域の学生大活躍！

▶▶松山支所

松山地域内の中学生・高校生を対象に、ボランティア活動を通じて地域の方との交流を持ち福祉について理解を深め、福祉人材の育成を図ることを目的にボランティアネットワークを実施しています。また、年間を通じてボランティア活動と共に研修や交流の機会を提供しています。



《主な活動内容》

- 「高齢者配食サービス事業」の調理ボランティア、配達ボランティア
- 世代間交流事業「さんさん夏まつり」での模擬店のお手伝い など



お弁当を作ってみて、
高齢者用ご飯の柔らかさが
分かりました。



他の学校のボランティア
とも交流出来て、とても
良かったです！



▲高齢者配食サービス事業
調理ボランティアの様子

▲世代間交流事業(さんさん夏まつり)
スタッフボランティアの様子

学生の「してみたい」を応援

▶▶岩出山支所

岩出山地域内の学校や、地域在住の学生と連携しながら、学生が「してみたい」活動を主とし、ボランティア活動に関する情報提供や講習会を行うなど、将来的に地域の担い手として活躍できる若い力を育てることを目的に学生ボランティア育成事業を実施しています。

学校内での「キャップハンディ体験」だけでは感じることの出来ない、より身近な、自分の暮らす地域にある困りごとや、それを支える地域福祉について考える・気づく機会としており、活動された方には、ボランティア活動証明書の発行も行っています。

《主な活動内容》

- 福祉用具清掃 ■地域福祉事業でのボランティア ■レクリエーション研修
- 地域福祉センター敷地内の除草作業 ■災害ボランティア活動 など



▲災害ボランティア活動の様子
(令和元年 11 月鹿島台地区)



▲福祉用具清掃の様子

例

車いす清掃活動の流れ

- 13:30 オリエンテーション
- 13:45 清掃活動開始
- 14:25 休憩
- 14:40 清掃活動再開
- 15:10 活動終了・まとめ
- 15:20 解散・帰宅





地域で考える福祉防災

▶▶松山支所

災害ボランティア活動推進の一環として、災害ボランティアに対する理解及び啓発と地域での福祉防災意識の向上を目的として実施しています。

大規模災害が起きた際に設置される災害ボランティアセンターの役割についての講話や、被災地で行われる災害ボランティア活動紹介等、地域住民を対象に行政区や自治会で行われる自主防災訓練時等で出前講座としてお話をさせて頂いています。



▲自主防災訓練時での福祉防災啓発・災害ボランティアセンターについての講話の様子



講話時間は約1時間ですが、ご相談に応じて調整致します。講話は地区の集まりや自主防災訓練時に併せても可能です。

サバイバルメシタキ体験

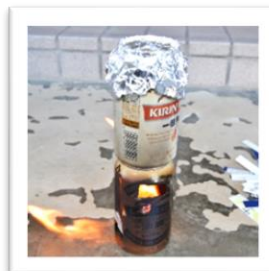
▶▶鹿島台支所

ボランティア活動や地域の福祉活動への参加など、将来の担い手である子ども達に福祉について関心を深めてもらう事を目的に鹿島台公民館との共催事業として「チャレンジスクール」を実施しています。

3泊4日の宿泊体験の中で災害時に役立つ知識や技術を体験するとともに、災害時の『支え合い・助け合い』について学習します。空き缶を使ってご飯を炊く『サバイバルメシタキ』体験を通して防災への意識と関心を高め、災害時に子ども達自身にできることは何かを考えてもらうきっかけ作りにもなっています。



▲サバイバルメシタキ体験の様子



▲空き缶を使って…



体験から学ぶ防災

▶▶古川支所

学校や地域で子どもから大人まで「防災」を身近に感じられるよう、身近にあるものや住民同士の知恵を活用しながら、世代を超えた体験を実施しています。

新聞紙やキッチンペーパーなど身近なもので作る防災グッズや、避難所等で役立つ段ボールベッドの体験、自分の非常持ち出し袋には何が必要か考えることのできる防災ビンゴ等を通して、普段から備えておくことの必要性や防災の重要性等について学びます

また、この機会を活用して、地域で集まるきっかけづくりや交流の機会づくりにも役立っています。

▼新聞スリッパ作り



▲段ボールベッド体験

▼防災ビンゴ



topic!

まごころ届け隊



令和元年東日本台風で大きな被害を受けた古川地域、鹿島台地域の被災された方々のお宅を訪問し、一刻も早い復興とこれまでの生活を取り戻していただけるよう、学生と一緒に「うるうるパック(生活必需品セット)」と「まごころ」をお届けしました。

古川地域

令和元年 12月7日
GAKUVOLAおおさきの
皆さんと共に活動しました。



鹿島台地域

令和元年 11月7日
大崎市立鹿島台中学校の
皆さんと共に活動しました。





音楽ふれあいコンサート

▶▶鳴子支所

地域と学校が一体になれる機会をつくることを目的に、鳴子地域の小・中学校(合計4校)を会場に学校・PTAとの共催で音楽ふれあいコンサート事業を開催しています。

毎年開催会場となる学校を代えながら、地域住民や保護者以外にも近隣の介護施設利用者、職員等、多くの方々に参加していただいています。

演奏を聴くだけでなく、実際に楽器に触れる機会や手拍子で演奏に参加するなど会場が一体となる事業となっています。



▲音楽ふれあいコンサートの様子

こども絵手紙ぼらんていあ

▶▶田尻支所

夏頃に放課後児童クラブの小学生に絵手紙を描いていただき、希望するひとり暮らし高齢者にお届けする「こども絵手紙ぼらんていあ」を実施しています。

子どもたちへ絵手紙の描き方を教えてくださる講師をお迎えし、夏野菜を画材とし、墨や顔彩を使った暑中見舞いとしての絵手紙を作成しています。絵の他にも「元気でお過ごしください」や「スイカを食べて乗りきろう」等、ひとり暮らし高齢者の励みになるひとことを添えています。

絵手紙の作成を通して、子どもたちが「福祉」にふれるきっかけづくりや高齢者に対する「思いやり」や「支え合い」の心を育むと共に、絵手紙を貰った高齢者が見守られているという安心感をもってもらうことを目的としています。



▲絵手紙指導の様子



▲絵手紙を描いている様子

しめ縄がつなぐ地域の絆

▶▶田尻支所

年末に地域の方を講師にお迎えし、一般の地域住民の方や幼稚園児が交流を図りながら、お正月用の「しめ縄作り」を体験する世代間交流事業を実施しています。

地域住民と次世代を担う子どもたちとの世代間での交流を通して、田尻地域の伝統的な習慣と技術を継承し、園児にとっては地域住民の方と一緒に物作りを行うことの楽しさを知り、さらには地域の年長者から指導を受けることで年長者を敬う心や、思いやりの心を育む機会となっています。そして、しめ縄飾りをひとり暮らしの高齢者に届けることで、高齢者の見守り活動にも繋げています。

上手にできたね！



そのほかにも…

おおさき福祉の心コンクール

▶▶本所

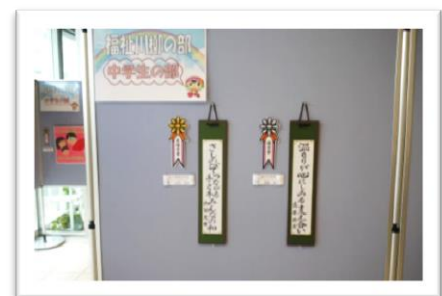
大崎市内の学校に在籍する小・中学生を対象に福祉に関する作品に取り組む事を通じて、地域福祉活動やボランティア活動への関心を高め、「思いやり」や「支えあい」の心を育む事を目的に、『おおさき福祉の心コンクール』を実施しています。

作品のテーマを「～つたえてみようあなたのふくし～」とし、福祉ポスター、福祉川柳、福祉作文を募集しております。日常での家族や友人との「思いやり」や「支えあい」の体験、ボランティア活動や福祉体験学習、赤い羽根共同募金など、みなさんの身近な体験等を通じて感じた思いを作品で表現していただいています。

入賞作品については、公共施設での展示や大崎市社協ホームページ等を通じて地域の方々にご覧いただくことにより、福祉に対する啓発活動の一助としています。



▲福祉ポスターの部入賞作品▶



▲入賞作品展示の様子
(大崎市図書館)

*ここにあげた事例はあくまでも一部であり、事例に記載されている支所以外でも実施しているところもあります。こんな体験をしてみたい！というものがありましたら、まずはぜひ社協にご相談ください！

福祉学習実施依頼書

令和 年 月 日

社会福祉法人 大崎市社会福祉協議会長 様

学校名・団体名 _____

代表者名 _____

担当者名 _____

☎連絡先 _____

実施日時	令和 年 月 日 () 時 分 ~ 時 分		
実施場所			
対象者		参加人数	名
学習目的			
学習内容			
使用物品	<input type="checkbox"/> 車いす (台) <input type="checkbox"/> 白杖 (本) <input type="checkbox"/> アイマスク (枚) <input type="checkbox"/> 点字マット (枚) <input type="checkbox"/> 点字器 (個) <input type="checkbox"/> 耳栓 (個) <input type="checkbox"/> 高齢者疑似体験セット (セット) <input type="checkbox"/> その他 ()		

社協収受欄

社会福祉法人 大崎市社会福祉協議会〇〇支所
TEL : 0229-00-0000 / FAX : 0229-00-0000

福祉学習実施報告書

令和 年 月 日

社会福祉法人 大崎市社会福祉協議会長 様

学校名・団体名 _____

代表者名 _____

担当者名 _____

☎連絡先 _____

実施日時	令和 年 月 日 () 時 分 ~ 時 分		
実施場所			
対象者		参加人数	名
学習目的			
学習内容			
学習後の成果・ 意見・感想等			

社協収受欄

社会福祉法人 大崎市社会福祉協議会〇〇支所
TEL : 0229-00-0000 / FAX : 0229-00-0000

コロナ禍での感染対策

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から様々な活動が制限される中、持続的な福祉学習の提供のために、学校や地域のみなさんと相談しながら、感染対策をした上で福祉学習を実施しております。ご協力の程よろしくお願い致します。

ソーシャルディスタンス



参加者全員
マスク着用

共用するものは随時消毒



アイマスク等は共用しない
ように個人のタオルを使用



共用するものを触る時
には手袋着用



おおさき福祉学習推進事業

大崎市社会福祉協議会では、地域共生社会の実現に向けて、そのきっかけとなる効果的な福祉学習実践を目指していくために「おおさき福祉学習推進事業」を平成29年度から実施し、職員のスキルアップを図っています。このハンドブックはその一環として令和2年度に職員内で検討会を行い作成しました。

《令和2年度 おおさき福祉学習推進事業 作成時メンバー》

- | | | | |
|-----------------|--------|----------------|--------|
| ・古川支所総務福祉係 主事 | 吹谷 絵里花 | ・鹿島台支所総務福祉係 主事 | 大子田 彩香 |
| ・古川支所総務福祉係 主事 | 原田 賢悟 | ・岩出山支所総務福祉係 主事 | 山縣 麗未 |
| ・松山支所総務福祉係 主任 | 鈴木 敦 | ・鳴子支所総務福祉係 主事 | 瀬野尾 翔汰 |
| ・松山支所総務福祉係 主事 | 菅原 春花 | ・田尻支所総務福祉係 主事 | 寒河江 瞳 |
| ・三本木支所総務福祉係 事務員 | 佐々木 陸奥 | ・本所地域事業課 係長 | 田端 則彦 |
| ・鹿島台支所 副支所長 | 熱海 嘉明 | ・本所地域事業課 主事 | 庄司 茜 |

【事業協力アドバイザー】

くらしの学びサポートオフィス HumanBeing 代表 菅原 清香 氏





大崎市社会福祉協議会 問い合わせ先



□ 本所	〒989-6154 大崎市古川三日町二丁目 5-1 (大崎市古川保健福祉プラザ 3F) TEL 0229-21-0550 / FAX 0229-24-1158
□ 古川支所	〒989-6154 大崎市古川三日町二丁目 5-1 (大崎市古川保健福祉プラザ 2F) TEL 0229-23-7400 / FAX 0229-21-8171
□ 松山支所	〒987-1304 大崎市松山千石字広田 11 (大崎市松山保健福祉センター「さんさん館」内) TEL 0229-55-4546 / FAX 0229-55-4548
□ 三本木支所	〒989-6321 大崎市三本木字大豆坂 24-3 (大崎市三本木保健福祉センター内) TEL 0229-52-2929 / FAX 0229-52-2900
□ 鹿島台支所	〒989-4103 大崎市鹿島台平渡字上敷 19-7 (特別養護老人ホーム 敬風園内) TEL 0229-56-9420 / FAX 0229-56-9624
□ 岩出山支所	〒989-6434 大崎市岩出山字下川原町 100-8 (大崎市岩出山地域福祉センター内) TEL 0229-72-5050 / FAX 0229-72-5057
□ 鳴子支所	〒989-6801 大崎市鳴子温泉字末沢 1 (大崎市鳴子保健医療福祉総合センター内) TEL 0229-83-2870 / FAX 0229-83-2872
□ 田尻支所	〒989-4308 大崎市田尻沼部字富岡浦 29 (田尻福祉センター「虹の郷」内) TEL 0229-39-1236 / FAX 0229-39-3602

大崎市社会福祉協議会ホームページURL

▶▶ <https://www.osaki-shakyo.com/>

大崎市社協



このハンドブックは、共同募金の財源を活用して作成しております。

ふくしの学びハンドブック

発行日：令和3年3月31日

編集・発行：社会福祉法人 大崎市社会福祉協議会